

城山小学校 第878回 平和祈念式 令和6年10月9日

2年生による発表

【7月 三田村静子さんの紙芝居「じいちゃん、その足どげんしたと」の感想】

- ・ぼくは、げんしばくだんのおそろしさは知っていたけど、もっと知ることができました。三田村さんが、「平和あ（あいさつ）い（いのち）う（うつくしい学校）え（えがお）お（おもいやり）」ということばを教えてくださいました。ぼくは、平和をはっしんしていこうと思います。
- ・わたしは、すごくなしかったし、せんそうは、とてもおそろしいなと思いました。だから、わたしは大きくなったら、みたむらさんのように平和をせかいの人におしえたいなと思いました。
- ・わたしは、せんそうのおそろしさをもともと知っていたけれど、もっと「こわい」ということが分かってよかったです。これから、げんばくのおそろしさをつたえていきたいです。

【少年平和像について】

タエ子ちゃんがいた城山小学校は、原爆のために壊れてしまいました。生き残った先生は、31人中たった3人で、1400人いた子どもたちも、みんな焼け死んだり、原爆病で死んだりして、200人いた1年生の中で生き残ったのは、タエ子ちゃんを入れてたった3人だけでした。

11月になり、稲佐の学校の教室を1つ借りて勉強を始めたそうです。先生たちが集めてくれた小さなえんぴつを、大事に使って勉強しました。そのころは、買いたくても、品物がなかったのです。

昭和23年4月に、やっと城山小学校に帰ることができました。タエ子ちゃんが6年生になったとき、原爆で亡くなった人たちのみ魂をなぐさめるために、そして、二度と原爆が使われないことをお祈りするために「平和の児童祈念像」を建てよう、という話が出ました。

タエ子ちゃんは6年生だったので、祈念像の立つ台の「平和」という字を代表で書くことに決めました。

ところが、そのころは、学校では、習字の勉強がなく、タエ子ちゃんは、筆をにぎったことも書き方も分かりませんでした。しかし、タエ子ちゃんは2か月間、毎日毎日「平和」の文字を一生懸命しました。

昭和26年8月8日。城山小学校で、「平和の児童祈念像」のできあがった式がありました。そこには、一人の少年が、左ひじを挙げて1羽のハトをとらせ、じっと遠くを見つめている像が建っていました。そして、その足の下、石の台には、「平和」という文字の銅板がはめこまれていました。大人も書けないほどの立派な字でした。その式には、タエ子ちゃんも来ていました。そして、子どもたちが歌う「子らのみ魂よ」の歌をききながら、「わたしも平和を守るために、もっとがんばります。」と語りかけていました。

- ・このお話を聞いて、タエ子ちゃんは、2か月間、毎日毎日「平和」の文字のれんしゅうをしてすごいと思いました。わたしたちは、これからどんなことをがんばっていきたくかを考えました。
- ・ぼくは、自学で、毎日かん字れんしゅうをしているので、これからも続けていきたいです。
- ・わたしは、これからちいきの人にあいさつをして、平和を広げていきたいです。
- ・わたしは、けんかなくピースとびかう楽しい学校にするために、こまっている人がいたら、声をかけようと思います。

ぼくたちは、**にこにこ笑顔になるようにじぶんで考えいろいろなことにチャレンジするにじいろ2年生になります！**

